

平成25年2月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成24年6月29日

上場取引所 札

上場会社名 株式会社北の達人コーポレーション
 コード番号 2930 URL <http://www.kitanotatsujin.com>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部長
 四半期報告書提出予定日 平成24年7月13日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(氏名) 木下 勝寿
 (氏名) 清水 重厚

TEL 011-757-5567

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年2月期第1四半期の業績(平成24年3月1日～平成24年5月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年2月期第1四半期	308	—	58	—	48	—	28	—
24年2月期第1四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円銭	円銭
25年2月期第1四半期	48.55	47.92
24年2月期第1四半期	—	—

(注)当社は、平成24年2月期第1四半期においては、四半期財務諸表を作成していないため、平成24年2月期第1四半期の記載及び平成25年2月期第1四半期の対前年同四半期増減率の記載をしておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円銭
25年2月期第1四半期	594	430	72.5	683.70
24年2月期	493	351	71.3	606.67

(参考) 自己資本 25年2月期第1四半期 430百万円 24年2月期 351百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円銭	円銭	円銭	円銭	円銭
24年2月期	—	0.00	—	0.00	0.00
25年2月期	—	—	—	—	—
25年2月期(予想)	—	20.00	—	40.00	60.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

3. 平成25年2月期の業績予想(平成24年3月1日～平成25年2月28日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円銭
第2四半期(累計)	516	50.8	98	99.7	86	73.5	50	58.7	80.66
通期	1,130	40.0	251	75.2	239	68.7	141	56.8	224.19

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年2月期1Q	630,000 株	24年2月期	580,000 株
② 期末自己株式数	25年2月期1Q	— 株	24年2月期	— 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年2月期1Q	582,173 株	24年2月期1Q	580,000 株

(注) 当社は、平成23年9月16日付で普通株式1株につき50株の株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して発行済株式数(普通株式)を算定しております。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、本資料発表日現在において当社が入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に対する仮定を前提としているため、実際の業績は今後の様々な要因により異なる可能性があります。上記予想に関連する事項につきましては、添付資料3ページ「業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する定性的情報	2
(2) 財政状態に関する定性的情報	2
(3) 業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報 (注記事項) に関する事項	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
(3) 追加情報	3
3. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第1四半期累計期間	5
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	6
(4) 継続企業の前提に関する注記	7
(5) セグメント情報等	7
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	7
(7) 重要な後発事象	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する定性的情報

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の復興需要等を背景に景気が緩やかに持ち直しつつあるものの、欧州の債務危機問題や円高の長期化、電力供給不足への不安など、依然として先行きは不透明な状況で推移しております。

一方、当社の主要な販売形態であるEコマース（電子商取引）業界におきましては、高機能携帯電話（スマートフォン）の利用者が急増しており、経済産業省の「2011年版ものづくり白書（ものづくり基盤技術振興基本法第8条に基づく年次報告）」によると、平成26年度の携帯電話利用におけるスマートフォン割合は、全世界で50%を超過するものと予測され、PCの代わりにスマートフォンが利用されるなど、普及が本格化してきております。

このような情勢の中、当第1四半期においては、利用者が特に急増しているスマートフォン向けのサイト構築・改良に注力するなど、各種の施策を展開し、安定顧客の取り込みによる売上の底上げを図ってまいりました。これらの結果、定期購入顧客の件数は前年同月比で倍増しており、安定的な収入の確保とともに、さらなる成長の基盤を構築いたしました。創業10周年の節目となる今年5月に、札幌証券取引所アンビシャス市場への上場を果たしたことで、信用力の向上やブランド認知度の向上などのシナジー効果で、さらに成長への基盤が固まっていくものと考えております。

こうした経営環境の下、当社の主力製品である「カイトキオリゴ」の売上高は236,273千円（対計画比125.0%）と極めて順調に推移しております。また、「奇跡の肌砂糖」においては、スマートフォンユーザーの獲得に成功したこと等により、売上高は33,560千円（対計画比286.8%）となり、大幅な増収となりました。

当初より課題でありました「カイトキオリゴ」への売上依存度（平成24年2月期で85.2%）につきましては、当第1四半期累計期間につきましては約76.5%へ、直近の平成24年5月度単月につきましては71.5%へと月を追うごとに順調に改善されております。その要因としては、「奇跡の肌砂糖」の平成24年5月度単月での売上高は19,227千円となり、発売から1年強で、当社主力製品である「カイトキオリゴ」の同月売上高の4分の1にまで迫るほどの急成長をしていること、また、その他製品の売上も堅調であることがあげられます。

以上の結果、当第1四半期累計期間の売上高は308,906千円（前年同期比85.7%増）となりました。また、営業利益は58,796千円（前年同期比146.9%増）、経常利益は48,499千円（前年同期比101.9%増）、四半期純利益は28,262千円（前年同期比69.8%増）となりました。

なお、前年同期比につきましては、当社は平成24年2月期第1四半期において四半期財務諸表を作成していませんが、当第1四半期累計期間と同一の会計処理基準に準拠して組み替えた前第1四半期累計期間の実績値と比較して記載しております。

(2) 財政状態に関する定性的情報

①資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第1四半期会計期間末における資産合計は594,502千円となり、前事業年度末に比べ101,190千円増加いたしました。これは主に現金及び預金が88,097千円、売掛金が14,519千円、たな卸資産が4,785千円増加したこと等によるものです。

(負債)

当第1四半期会計期間末における負債合計は163,773千円となり、前事業年度末に比べ22,327千円増加いたしました。これは主に未払金が28,876千円、前受金が13,620千円増加した一方で、未払法人税等が25,216千円減少したこと等によるものであります。

(純資産)

当第1四半期会計期間末における純資産合計は430,729千円となり、前事業年度末に比べ78,862千円増加いたしました。これは主に株式上場時の公募増資による資本金及び資本剰余金が50,600千円、利益剰余金が28,262千円増加したことによるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第1四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前事業年度末に比べ88,097千円増加し、368,338千円となりました。

当第1四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第1四半期累計期間において営業活動の結果増加した資金は、41,350千円となりました。この主な要因は、税引前四半期純利益48,499千円、未払金の増加20,806千円、前受金の増加13,620千円が生じた一方で、売上債権の増

加14,519千円、たな卸資産の増加4,785千円及び法人税等の支払額43,450千円が生じたこと等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第1四半期累計期間において投資活動の結果減少した資金は、636千円となりました。この要因は、有形固定資産の取得によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第1四半期累計期間において財務活動の結果増加した資金は、47,383千円となりました。この要因は、株式上場時の公募増資に伴う株式の発行による収入48,978千円が生じた一方で、株式公開費用の支出1,595千円が生じたことによるものであります。

（3）業績予想に関する定性的情報

業績予想につきましては、平成24年5月29日の決算短信で公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

（1）四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（2）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

（3）追加情報

（会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用）

当第1四半期会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。

3. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年2月29日)	当第1四半期会計期間 (平成24年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	280,241	368,338
売掛金	60,232	74,751
製品	54,312	73,424
仕掛品	13,186	420
原材料及び貯蔵品	54,813	53,253
繰延税金資産	5,847	3,844
その他	9,223	5,049
貸倒引当金	△508	△1,075
流動資産合計	477,349	578,007
固定資産		
有形固定資産	5,673	6,363
無形固定資産	3,532	3,375
投資その他の資産	6,756	6,756
固定資産合計	15,963	16,495
資産合計	493,312	594,502
負債の部		
流動負債		
買掛金	8,267	10,641
未払金	29,812	58,688
未払法人税等	43,450	18,233
未払消費税等	3,965	5,503
前受金	50,336	63,957
販売促進引当金	3,114	3,855
その他	2,498	2,893
流動負債合計	141,445	163,773
負債合計	141,445	163,773
純資産の部		
株主資本		
資本金	47,000	72,300
資本剰余金	27,000	52,300
利益剰余金	277,866	306,129
株主資本合計	351,866	430,729
純資産合計	351,866	430,729
負債純資産合計	493,312	594,502

(2) 四半期損益計算書
(第1四半期累計期間)

(単位：千円)

	当第1四半期累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年5月31日)
売上高	308,906
売上原価	72,949
売上総利益	235,957
販売費及び一般管理費	177,161
営業利益	58,796
営業外収益	
受取決済手数料	566
その他	22
営業外収益合計	588
営業外費用	
株式交付費	2,194
株式公開費用	8,684
その他	5
営業外費用合計	10,884
経常利益	48,499
税引前四半期純利益	48,499
法人税、住民税及び事業税	18,233
法人税等調整額	2,003
法人税等合計	20,237
四半期純利益	28,262

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	当第1四半期累計期間 (自 平成24年3月1日 至 平成24年5月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税引前四半期純利益	48,499
減価償却費	511
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	566
販売促進引当金の増減額 (△は減少)	741
株式交付費	2,194
株式公開費用	8,684
売上債権の増減額 (△は増加)	△14,519
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△4,785
その他の資産の増減額 (△は増加)	4,174
仕入債務の増減額 (△は減少)	2,373
未払金の増減額 (△は減少)	20,806
前受金の増減額 (△は減少)	13,620
その他の負債の増減額 (△は減少)	1,932
小計	84,801
法人税等の支払額	△43,450
営業活動によるキャッシュ・フロー	41,350
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△636
投資活動によるキャッシュ・フロー	△636
財務活動によるキャッシュ・フロー	
株式の発行による収入	48,978
株式公開費用の支出	△1,595
財務活動によるキャッシュ・フロー	47,383
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	88,097
現金及び現金同等物の期首残高	280,241
現金及び現金同等物の四半期末残高	368,338

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

(セグメント情報)

当第1四半期累計期間 (自 平成24年3月1日 至 平成24年5月31日)

当社はEコマース事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は、平成24年5月29日に札幌証券取引所アンビシャス市場に上場いたしました。上場にあたり、平成24年5月28日付で公募増資の払い込みを受け、資本金及び資本準備金がそれぞれ25,300千円増加しております。

この結果、当第1四半期会計期間末において資本金が72,300千円、資本剰余金が52,300千円となっております。

(7) 重要な後発事象

該当事項はありません。